

[dōnk]

DONC どんく

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

〒514-0006 津市広明町418
418, Komei-cho Tsu-shi
TEL. 059-226-2766
FAX. 059-229-0967

N° 55 janvier 2001 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

BIENVENU
A

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE de MIE

三重日仏協会のホームページ立ちあがる！

<www1.mint.or.jp/~sfjmie>

お待たせいたしました。ようやくホームページが立ちあがりました。会員の三吉研一さんが今まで作成された三重日仏のフォトアルバムも加えて、ビジュアル的にも楽しいものとなっています。各種行事予定・定例会情報・会員近況などのページを用意しましたよりよい会員相互の情報交換の場になれば幸いです。なお、e-mailの宛先は、sfjmie@mint.or.jpまで

この機会に、フランス関係のホームページの一部をご紹介します。

フランス大使館：www.ambafrance.or.jp

フランス政府観光局：www.franceinfomation.or.jp

在日フランス商工会議所：www.ccifj.or.jp

東京日仏学院：www.iac.co.jp/~netifjt/

レセプション・ド・フランス（有名料理家が紹介する動画レシピなど）：www.receptionfrance.com

チーズ愛好家たちのランデヴー：www.fromages.com

ピアンウニュ・アン・フランス（フランス旅行や滞在についてすべてがわかる）

：www.franceguide.com/fr/france.htm

パリスコープ（映画・演劇・美術館・コンサート等、パリのホットな情報）：www.pariscope.fr

ルーヴル美術館：www.louvre.fr

オルセー美術館：www.musee-orsay.fr

ユニヴェルサリス大百科事典：www.universalis-edu.com

1930年代フランス映画への憧れ

吉村英夫

ジュリアン・デュビエを筆頭にして1930年代のフランス映画の巨匠とされるジャック・フェード、ジャン・ルノアール、ルネ・クレール、マルセル・カルネなどの名前を聞くだけで胸がどきどきする青春時代が私にはあった。フェードは一本も見たことがないのに、憧れ慕い続けた。情感に満ちており、同時に覚めた目で人生を見るしっとりとしたリアリズム映画こそが私のもっとも好む映画だと思っていた。60年安保闘争に、つかず離れずの感じで、いわば民主主義擁護の名のもとにささやかにかかわった私は、30年代フランス映画の主流が、フランス人民戦線に強弱の差はあれエールを送ったこれらの監督達に、以後改めて敬愛の気持ちを持つことになり、リズムとリアリズムに、一定の社会進歩への志向を持った映画を是とするようになっていった。

人民戦線へのエールの送り方は、ルノアールが『大いなる幻影』その他で、かなりストレートに階級的な立場を擁護したのに対して、デュビエは『我らの仲間』で連帯が解体していくさまをじっくりと見つめるという消極姿勢であった。フェードやカルネはその中間か。それにしても、いま挙げた演出家の作品の多くのシナリオを手がけたシャルル・スパークも含めて、彼らは芸術至上主義とは無縁な映画人だった。人生を凝視するのと同じ態度で世の中をしっかりとみつめているのがなんとも快い。

とはいえルノワールのような社会正義の観点で政治的立場を明確にした映画人でも、政治至上主義とは無縁であった。芸術を政治の僕（しもべ）と考えることはなかった。映画と政治、あるいは芸術の社会性、それらと向かいあう基本的尺度を、それとなく教えてくれたのも30年代フランス映画である。

それにしても、どうして私はフランスやフランス映画に憧れ、いまだに日仏協会になんとか会費を払っているのか。アジアの人間として、果ての果てであるヨーロッパなどにこだわらずに、もっとアジアに目を向けなければと思うことしばしばである。フランスよりも中国や朝鮮と、日本や自分がどう向き合っていくべきかを考えねばと思ったりする。それでも私のフランス病は治りそうにない。『望郷』でジャン・ギャバンのペペが「パリのメトロの匂いが忘れられない」というのが論理ではなく感情の領域であるように、私も理性ではどうにも説明がつかないフランス熱からまだ覚めやらぬのである。

無理矢理に理屈をつけるなら、日本が侵略戦争へと傾斜していった30年代に、とにもかくにも人民戦線という歴史に対する前進的試行に労働者も知識人も必死になって参加していったことへの敬意と無関係ではなかろう。あるいは、第二次大戦で「神を信じたものも信じなかった者も」が、共通の敵であるファシズムと戦った名もない戦士達のレジスタンス運動へのはるかなる憧憬に根源はあるかもしれない。

吉村英夫氏 津市在住。映画評論家。著書多数、フランス映画関係では「大いなる幻影」考—1930年代フランス映画私記—(1995年学陽書房)、近著(2000年刊)には「君はこの映画を見たか!」(大月書店、「松竹大船映画」(創土社)がある。



30年代フランス映画を支えた一人、ルイ・ジューベの墓石に献花。1999年9月、モンマルトルの墓地での筆者

フランスに生きる三重県人(Ⅲ)

銀行勤務からフランス留学を経て…

世古由里子さん

今回は北牟婁郡海山町出身で南仏エクスアンプロバンス在住の世古由里子さんにご登場ねがいます。昨年秋、ニッポン放送ラジオ・ワイド番組『塚越孝の土曜ニュースアドベンチャー』のなか、海外で活躍している日本人の生活を紹介する“ワールドストリート”というコーナーで、塚越氏との電話による対談形式で放送されたものから抜粋要約してお伝えします。なお、この番組の内容は数々の美しい現地の写真とともにインターネットでも通信されました。(www.1242.com/adven/tuka_d/world/000930/000930/htm) なお世古さんの e-mail は : y.seko@wanadoo.fr



世古由里子さん
(インターネットより)

塚越 けさは光あふれるのどかな農村風景がひろがる南仏プロバンス、そのフランスの南の玄関マルセイユから、高等技術者大学校で日本語の講師をしておられる世古由里子さんにお話をおうかがいします。由里子さん、日本は涼しくなりましたがそちらはどうですか。

世古 こちらも秋らしくなってきました。今日は珍しく雨が降っています。

塚越 はきはきしたいいいお声で美しい日本語を話されますね。さすが日本語の先生だ。そちらは空も海も青くていい所だと聞きますが、どんな…?

世古 ゆったりしてますね。土地も平らで広く、道もまっすぐ。せかせかしてません。仕事は5時にちゃんと終わります。というより4時半ごろにはそわそわし始めて5時前には戸締りも終わっているという感じ。

塚越 いいなー、それから何を?

世古 みんないったん家に帰って、シャワーを浴びて、着替えて外出します。

塚越 おしゃれして繰り出すわけか。で食べ物はどうですか。

世古 野菜も果物も豊富でおいしいです。

塚越 プロバンスは世界的にブームのようですが、由里子さんは三重県からどうしてマルセイユに来ることになったのですか。

世古 もともとフランスに興味があったわけではなく、高卒後地元の銀行に就職して5年間勤めました。そこで「社会人入学」ということで三重大学に入ったのですが、3年生のと

き、お世話になった先生がベルギーにいらして、「一度ヨーロッパに来てみなさいよ」と言って下さいました。「じゃあ行ってみよう」と初めて一年間パリに留学してフランス語を勉強したのです。

塚越 ああそれで、「やっぱりいいところだ」ということに?

世古 パリはそんなにいいとは思わなかったんですが、せっかく始めたフランス語を中途半端にたくなくて、いったん帰国して2年後、奨学金をいただく機会があったので改めてプロバンス大学に留学しました。そこで勉強している間に日本語講師の仕事につくことになったのです。

塚越 じゃあそっちに骨を埋めようという気持ちになったわけ?

世古 うーん、帰る予定はないですね。

塚越 いいところだから?

世古 はい、マルセイユの人は荒っぽいと言われますが、人情はあたたかいし…

塚越 写真を見ると大学はきれいだし、日本語教室も和気あいあいの感じ…うらやましい!

世古 楽しいですよ。いらしたらいかがですか?

塚越 そういう風に言われて行っちゃったんだもんね、由里子さんもね。すぐ行こうかなあ。充実した楽しい日々を過ごしておられるのがお声からもよくわかりました。ますますご活躍ください。

11月例会 伊勢市の<カフェ・ランティエ>で

三重日仏協会11月の例会は16日初めて伊勢市での開催となりました。数年前から仏アルカション地方のルテシュ市との交流を続けている度会郡玉城町のメンバーを中心に数十人が参加し、ちょうど当日解禁となったボジョレ・ヌヴォーで乾杯、さまざまな話題に花を咲かせました。

12月例会はドイツ人学生がゲストに

続く12月例会は津市の井上邸で開催。この3年間、本会のフランス語入門講座の講師をお願いしてきた三重大学の平石典子先生が来年度、筑波大学に転任されることになったため、その送別・謝恩の集いとなりました。またこの日は三重大学に留学中のドイツ人学生カルメン・ラウブレさん（フランス語が堪能でいまフランス語教師に挑戦中）とトビアス・シンカレック君、さらに指導教官の大河内朋子先生（ドイツ学）がゲストとして参加、期せずしてさながら「日独交流の夕べ」の様相を呈しました。

LECTURE 読書会 次の作品は「海の沈黙」の予定

一昨年から月一回のペースで津市で開かれているフランスの文学作品を読む会、この2月までにバルザックの二つの作品をなんとか読み終わります。3月からは次の作品に挑戦しますが、今回は20世紀半ばのころの名作、ヴェルコール『海の沈黙』（Vercors “LE SILENCE DE LA MER”）を取り上げる予定。新しい参加者を歓迎します。テキスト 1,160円をまとめて注文しますので、希望者は事務局までご連絡ください。

三重日仏協会後援

会員音楽家による演奏会

4 / 6 (金) 大廣朋子ピアノリサイタル

津リージョンプラザお城ホール 19:00開演

自由席 2,500円

ショパン 華麗なる変奏曲op12 ほか

ラヴェル 夜のガスパール ほか

4 / 26 (木) 菅原美枝子ピアノリサイタル 故・伊達純先生追悼

津リージョンプラザお城ホール 19:00開演

自由席 3,000円

ショパン 4つのマズルカop67 ほか

ベートーヴェン ソナタop109 ほか

訃報 自見英彦さん

三重日仏協会会員。フランスでキュージニエとしてご活躍中、昨年11月パリ郊外で交通事故のため急死されました。享年36歳。謹んでご冥福をお祈りします。